

2020年(令和2年)5月21日(木曜日)

**教えて！  
ドクター  
Q&A**

(株)宣通 (052)979-1600 広告

**Q**

2週間前にジムで筋トレ中に突然左後頭部に激痛がはしり、しばらくしてふわふわするめまいを感じました。左後頭部の頭痛感が改善しない為、内科を受診したところ血圧が高いと言われ降圧剤を処方されました。今まで高血圧を指摘されたことはなく、降圧剤は一度内服すると一生飲み続けたいといけないと耳にした為、内服はせず様子をみていますが、脳の検査をした方がよいでしょうか？

**A**

突然の激しい頭痛を訴えた場合、まっさきに鑑別しなければならぬのは、くも膜下出血です。くも膜下出血の多くは脳動脈瘤が破裂して発症します。一度破裂した脳動脈瘤は手術によつて治療しない限り、繰り返し破裂して出血するため致死率の高い疾患です。この方の場合も発症した当日に頭部CTを行い、くも膜下出血でないことを確認すべきであつたと考えますが、2週間経過した時点で行う

検査としては頭部MRI、MRAが最も診断価値があると考えます。左後部の頭痛と浮動性めまい、そして高血圧から、左椎骨動脈の解離性椎骨動脈瘤の疑いがあり、これを鑑別するにはMRAによる脳血管の評価が必要だからです。検査までの期間には血圧の管理が必要で降圧剤の内服を行うことを勧めます。血圧を下げることで解離性椎骨動脈瘤の増大や解離の進行が予防でき自然治癒機転も働くことが知られています。もし、解離性椎骨動脈瘤が見つかった場合は、その形態から手術が必要な場合と経過観察でよい場合があります。経験豊富な脳神経外科医に相談するのがよいでしょう。解離性椎骨動脈瘤の手術は、現在血管内手術で治療する症例がほとんどで、コイル塞栓術に加えてステント留置術も行われるようになり以前に比べて安全に治療することが可能です。



院長 酒井 直人  
(サカイ脳神経外科)

認定 脳神経外科学会  
卒業 浜松大学  
入局 浜松市立中央病院  
勤務 聖隷聖院、成  
績 総合病院、サカイ  
センター、御崎、平  
松市、松山市、松  
山大学、松山市、  
28年 脳神経外科開  
院、脳神経外科、  
頭痛、めまい、物  
忘れ、脳卒中後遺  
症、難治性めまい  
の診察に力を入れ  
て、脳卒中、難治  
性めまい、難治性  
めまいの診察に力  
を入れている。